芸振

もくじ

ずいそう…1
学校巡回公演…2
62年度の主な事業と予算…3
さざ波…4
芸術文化基金海外派遣事業帰国報告…5
第23回大分県芸術祭、加盟団体の活動…6
豊の国文化創造県民会議スタート…7
シリーズ会員通信①わたしは今…7
事務局だより…8

大分県芸術文化振興会議
発行人:挟間正年 編集人:後藤昭六
No.71 62・10

大分県芸術祭への期待

大分県芸術文化振興会議
事務局長 後藤昭六

さわやかな秋は、また、芸術文化活動の季節でもある。県下の芸術文化活動の成果を総合的に発表公演する第23回大分県芸術祭は、10月1日の宇佐文化会館における開幕公演を皮切りに、2か月間にわたって123行事が芸術の秋を彩ることになっている。

「バラバラに行われている文化団体の行事をまとめて開催したらどうか、そのために推進母体を作ろう」という関係者の発意が、昭和39年の大分県芸術文化振興会議の結成に結実し、翌40年には第1回の大分県芸術祭が開催されそのときは、23の行事が参加している。

以来、23年、最近は100以上の行事の参加が定着し、ジャンルも拡大して音楽・演劇・舞踊などの舞台関係をはじめ、美術・映画放送・文芸・生活芸術・地域総合文化など11の部門にわたっている。

また、大分県芸術祭に参加する文化団体の活動の基底条件の整備も着々と進んでいるのが実情である。

地域における芸術文化振興の〝基地〟となる文化施設の整備、製作や発表公演に要する経費を補う大分県芸術文化基金の運用、芸術文化創造の意欲を触発するすぐれた芸術鑑賞機会の拡充など、大分県芸術祭発足当時とは比較にならないほどの創作環境の変容ぶりである。

ここまでくるには、多くの関係者の理解と支援があったことも忘れられないし、また、文化団体自体の努力も見落せない。そのうえで、大分県芸術祭のよりいっそうの発展を願って、幾つかの問題提起をしてみたい。

その1つは、大分県芸術祭の地域的な広がりの問題である。今年は、過去最高の123行事となっているが、これを開催地別に見ると、県下58市町村のうち、不参加町村が9つある。昨年、不参加21町村に比較すると12町村が減少しているものの、2年連続不参加が7町村を数えている。

大分県芸術祭が、全県的な文化振興の気運を醸成し、「風土」をキーワードとして、個性ある地域文化の創造を意図するものである以上、全市町村の参加が望ましい。

その2は、文化団体個々の内的活性化の問題である。意欲的な芸術文化創造の過程において、同じ目的をもつ個々が、それぞれのジャンルの中で組織化されて文化団体が構成される。

文化団体の組織が大きくなり、機能が合理化されてくるにしたがって、個々のあり方によって、組織が形骸化したり、その枠組みが活動の障壁となる傾向が生じやすい。文化団体の運営にとってすぐれた指導者や熟達した活動家は不可欠の要件ではあるが、活性化のために、後に続く人材の育成が常に問われているのである。

芸術祭の顕彰に、奨励賞や新人賞など個人を対象とした規定が設けられていることの意味を考えてみたい。

その3は、創作活動の内容の問題である。40年代に、既成の作品の発表公演に飽きたらず、地域に密着した手作りの、しかも、長い時間をかけて練り上げられた作品が大分県芸術祭に登場した時、それは新鮮な驚きとともに、大分という文化風土に根ざした創作活動の意義が改めて見直されたものである。

たくましい創造力と燃えるような情熱が、継続的な努力に裏打ちされ、人々に感動を呼び起こす作品に結晶した姿が、大分県芸術祭のもつ、魅力のひとつと思うのである。

第23回大分県芸術祭開幕公演
―草地踊り―（草地踊り保存会）

芸術鑑賞事業　学校巡回公演

今年で三年目に入った芸術文化基金事業は、七月十四日の上浦町の最勝海小学校を皮切りに鶴見町の吹小学校、翌十五日は、鶴見町の中浦小学校、十六日には、米水津村の向陽小学校と色宮小学校へ大分大学混声合唱団コール・レティッヒが公演し児童・生徒と一体となった舞台は、いつもながらのすばらしいもので、すっかり定着した感があった。

大分大学混声合唱団コール・レティッヒ
（7月14日　最勝海小学校）

また、大分県洋舞踊協会によるバレエ巡回教室が、八月六日竹田市の宮城台小学校と豊岡小学校、十日には、竹田小学校と南部小学校で公演されバラエティに富んだ舞台と、わかりやすい解説で児童・生徒たちを魅了した。

大分県洋舞踊協会 バレエ巡回教室
（8月6日　宮城台小学校）

さらに新しい試みとして、巡回公演にあわせて、児童・生徒絵画作品展を実施した。これは、七月に開かれた第五回高山辰雄ジュニア県美展の作品の中から高山辰雄優賞や豊肥地区の子どもの作品を中心に五十三点を展示。舞台芸術と美術鑑賞の一石二鳥の欲ばった企画で、現場の関係者から非常に喜ばれた。

児童・生徒絵画作品展
（8月6日　宮城台小学校）

62年度の主な事業と予算

6月	
18日	理事会・総会
7月	
	芸術文化団体補助金交付（毎月末）
14日	学校巡回公演コール・レティッヒ 2会場
15日	学校巡回公演コール・レティッヒ
16日	学校巡回公演コール・レティッヒ 2会場
8月	
6日	学校巡回公演県洋舞踊協会 2会場（児童・生徒絵画作品展）
10日	学校巡回公演県洋舞踊協会 2会場（児童・生徒絵画作品展）
10月	
1日	第23回大分県芸術祭　開幕公演
10日	文化キャラバン「つみ木座」
	下旬　芸振第71号発行
11月	
1日	文化キャラバン「県庁職員吹奏楽団」
3日	ファミリー芸術劇場「県民演劇」
1月	初旬　芸振第72号発行
2月	下旬　基金運営協議会
3月	下旬　芸振第73号発行
	下旬　大分県文化年鑑発行

予算

大分県芸術文化振興会議の基金事業は、60年度に団体補助の一部を除いて始められ、61年度には全面的に運用され、今年はその3年目を迎えた。

これは、「芸術文化基金」の利息収入による「県費補助金」であるが、以下はその状況である。

○収入　18,670千円は、基金利息による補助金が90%でそのほとんどを占め、残り10%が、団体と個人の会費である。

○支出　芸術鑑賞事業として、ファミリー芸術劇場が1会場898千円と、学校巡回公演が9会場の1,514千円である。次に地域文化活動促進事業としての文化キャラバンは、2会場1,478千円で、その他に芸術文化団体補助が、42団体の8,970千円、海外派遣は800千円、また、事務局費が、2,170千円と芸術文化振興会議費として2,840千円で、その割合は右の図の円グラフのとおりである。

事業

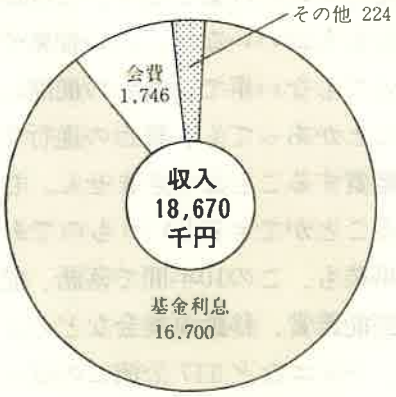
○ファミリー芸術劇場　芸振加盟団体の出演希望をとり、この団体の公演内容による市町村からの公演希望を中心にして事業を決め、実施するもので、今年は11月3日に、安岐町で県民演劇制作協議会により実施の予定である。

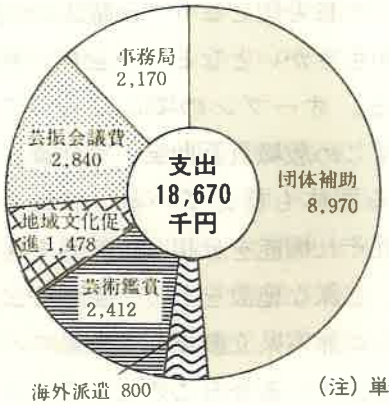
○学校巡回公演　大分大学混声合唱団が県内5校を7月14、15、16日に、また県洋舞踊協会が竹田市内の4校を8月6、10日に実施し大好評であった。

○文化キャラバン　この事業も団体出演希望と市町村の公演希望をとって実施するもので、10月10日に佐賀関町で劇団つみ木座が公演、11月1日には、大分県庁職員吹奏楽団が、野津町で公演の予定である。

○事務局費　事務局職員の報酬を中心に1,859千円と、基金運営協議会（芸振会長の諮問により事業計画と運営について答申する）の経費156千円、それと地域文化団体協議会（地方文化振興のため、当該文化団体と懇談協議する）の経費155千円が予算化されている。

○芸術文化振興会議費　機関紙「芸振」の年3回発行と、年間の活動実績などを記録して発行する「文化年鑑」の発行を中心に、臨時職員1名分の賃金などの経費である。





（注）単位千円

さざ波

芸術会館 10周年目の雑感

大分県立芸術会館
主幹研究員
渡辺舜多郎

十年一昔と言われるが、時の流れは早いもので、昭和52年の芸術会館オープン時の慌しさが、まるで昨日のことのように思い出される。

10年たった現在では、武漢の森、ワンパク広場、国際交流広場などと周囲の環境も整備され、そこで憩う家族連れの姿も多く見かけるようになった。

芸術会館を訪れる方々は年々増え、この10年間で美術館1,210,903名、ホール840,500名、会議室・リハーサル室174,897名の利用者となっている。ステージでの上演は、オーケストラ、ピアノ、ジャズ、ニューミュージック、演劇、能楽、歌舞技、日舞、民謡、バレエ、講演会など多岐のジャンルにわたり、1,593公演にのぼっている。これらの公園や発表に対して、照明、音響、大道具、舞台進行など舞台裏でお手伝いをするわけである。オープン時には、利用者の方々から不安がられたものであるが、現在では安心して任せていただいている。これらの公演に携わって最も楽しいのは、いろいろなジャンルの人々の話を聴き、いろいろな考え方を教えていただけることで、これは他の業務に携わっていてはできないことである。知人から「あんたたちはいいなァ、いい音楽や芝居とか、展覧会が観られて」と度々言われる。しかし、とんでもない事で、舞台の展開に追われて、それどころではありません。たまたま、客席に座ることがあっても、舞台の進行やお客様の反応が気になって、顔は舞台に向いていてもゆっくり鑑賞することはできません。むしろ、入場券を買って他のホールに行く方が落ち着いて鑑賞することができるというものである。

自主事業も、この10年間で落語、能、サマーコンサート、創作実験劇場、親子劇場、ふるさと民俗芸能鑑賞、移動演奏会などのシリーズものや、歌舞伎、新劇、オーケストラ、ピアノ、室内楽、バレエなど117公演にのぼっている。

世界一の長寿国となり、土曜休日が普及してくると余暇の活用が必然的に要求され、芸術やスポーツが生きがいとなると、会館の利用が益々盛んになり、会館の職員はさらに多忙になると思われる。オープンの頃にくらべて、この数年間に芸術会館はもちろん、市立の文化会館などをはじめ教職員互助会、文化課、音楽友の会、子ども劇場、市民劇場などプロの芸術家を紹介する団体も増えている。これらの団体がそれぞれに同一パターンの公演を行うのではなく、それぞれ機能を分担し、特色を生かした公演をすべきだと考える。また、県内にはつぎつぎと、立派な施設をもった会館や公民館なども建設されているが、多目的ホールではなく、これからは熊本県立劇場や宮城県のバッハホールのような専門のホールが必要になるのではないかと考えている今日このごろである。

昭和61年度 海外派遣研修事業 帰国報告

辛島 光義

とうとうやって来た。憧れのウィーンに。

音楽の都ウィーン。そのウィーンの香りを束の間ではあるが、研修テーマを通して捜し求めたい。10月になって活動開始。ウィーンコンセルバトリウム（市立音楽院）短期留学生としてチェロをバイロフ教授、室内楽をスコッチ教授に師事。二人の師に共通して教わったことは、チエロ奏法の中で、左手の技術と右手の芸術性であった。全体的には、音そのものに色を付けたり、音に思想、哲学、人生を盛り込まなければならない。それぞれの先生から出された注文は、本当に納得させられる音楽の原点であり、今後の課題として研鑽を積んで行きたい。

音楽の都ウィーンはどこから出たのか、今日、オーストリア政府は国家予算の３分の１をウィーンを中心とする音楽行政に費やし、ウィーンでは、世界の一流音楽家の公演が絶えず行われている。一流の演奏に接することは、東京でも経験できる御時勢であるが、何かが違う。ウィーン古典派音楽発祥の地であることなども考えられるが、何と言っても、それらを支えて来たウィーン市民そのものの力が一番大きなことであろう。ウィーン市民のクラシック音楽愛好心は想像を絶するもので、有名なウィーンフィルのコンサートチケットは、年間を通して自分の席を確保しており、我々旅行者は立見席しか残っていない状況であった。

10月に室内楽、11月にはベートーヴェンの第九をはじめ、種々のオケ、〝素晴しい〟の一語に尽きるオペラを鑑賞した。どれも本当に素晴らしかった。正装に正装を重ねた観客、厳粛なムードの中で楽しむ人々。ウィーンならではのムードが確かに存在していた。

研修地ウィーンにて

これら個人的な音楽経験もさることながら、ベートーヴェンなどの多くの音楽家の墓標、住居跡、使用楽器をはじめとする数々の遺産を目のあたりにし、語り継がれる音楽そのものに接することができて、音楽教師として新たなる教育観に目ざめる思いであった。

終りに、２か月の短かい期間ではあったが、ウィーンに滞在し、本場音楽の真髄に触れることができて心洗れる感じであった。

このような機会を与えて下さった関係機関と、ご尽力下さった方々に心から厚くお礼申し上げ、この貴重な経験を今後の指針としていきたい。

ウィーンは今日も、きっとあのままの姿だろうな……。

第23回大分県芸術祭

最多の123行事

第23回大分県芸術祭開幕公演　梅幸会による関の鯛釣り唄

第23回大分県芸術祭は昭和62年10月１日宇佐市において、梅幸会の「豊の国民謡の旅」公演により多彩な行事の幕をあけた。

今年の芸術祭は４つの主催行事をはじめ８つの共催行事など一般参加行事を含めて過去最多の59年度と同じ123行事が10月～11月の２か月間にわたって県下各地で開催される。

主催４行事は次のとおりである。

■主催行事

部門	行事名称	期日(期間)	開会時間	会場	主催団体
音楽	豊の国民謡の旅	10月１日(木)	18：00	宇佐文化会館	日本民謡梅幸会
演劇	吉四六よUFOに乗れ！	10月24日(土) 25日(日)	18：30 13：30 18：30	県立芸術会館	県民演劇制作協議会
音楽	フィガロの結婚	11月28日(土)	18：00	県立芸術会館	県民オペラ協会
美術	第23回　大分県美術展	10月１日(木) ～25日(日)	9：00	県立芸術会館	県美術協会

加盟団体の活動

小袋丹一座

（演劇）

3月12日(土)PM6：30　芸術会館
第10回　芸館創作実験劇場
小袋丹一座20周年記念公演

原作・尾崎紅葉「金色夜叉」翻案・小袋丹

新版「金色夜叉」

乞うご期待！

(1)　会の目的

呵呵大笑・痛快無比。それでいてペーソスあるドラマツルギー（何と欲張りな）を志向して20年。来春には25回公演（すべてオリジナル）を迎える。これからも一作ごとに全力投球あるのみ。

(2)　組　織

昭和43年、旗上げ以来、一貫してプロとして通用する演劇人を目指して訓練に励んでいる。誰もがやれるのが俳優であり、演出である。同時に誰もがなれないのが俳優芸術家であり、演出家である。それ故に、一座が厳しいと言われる点は、やはり創造的想像力の希薄な方は消えていくしかないということである。〝仲良しグループ〟ではありませんから。

前回公演の「すだれ髪」

(3)　会員数

８月現在14名。

(4)　活動の現況

年２回の公演の他、３～４年周期で大学祭、地域の青年団主催による公演を行っている。（８月現在12か所巡演）

(5)　今後の展望

おかげさまで毎回当日券が30～40枚はコンスタントに捌ける。この有難い状況に甘えることなく、これからも**コク**があって**キレ**のある芝居づくりに励みたいと思っている。

灰塚塵芥

豊の国文化創造県民会議スタート

21世紀を目前にして、新しい県民文化の創造を目的とした「豊の国文化創造県民会議」の初会合が、去る９月29日、大分市で開催された。

この県民会議は、昨年10月、21世紀豊の国文化創造懇話会の提言を受けて、その提言の具現化とプログラムづくりのために設置されたものである。

この県民会議の座長に、満場一致で選出された挾間正年芸振会長は、知事が提唱している「ものも豊か、心も豊かな豊の国づくり」をさらに推進するためには、幅広い県民文化の創造と振興は不可欠のもので、この県民会議の役割は誠に大きいとあいさつ。

今後、30項目の提言の中から、課題を絞って議論を深め、来年の秋に中間報告を行い、64年秋までに最終報告を行うことになっており、その成果が期待される。

なお、23人の委員の内、芸振会議関係者は次のとおり。

後藤智江、田村卓夫、仲町謙吉、挾間正年、狭間久の５人。

座長に選任されあいさつをする挾間芸振会長

新シリーズ① 会員通信

二宮敬介

わたしは、今

「特殊メイクに挑戦」

定年退職までにはまだ間があったが、今年３月県立二豊学園を最後に県職員を退職した。学生時代から好きな演劇活動を続けてきたが、昭和44年聴覚障害者とかかわるようになり、彼等と49年から手話劇にチャレンジしてきた。昨年７月18日、県立芸術会館創作実験劇場で手話劇「夕鶴」を公演し、多くの方々が観劇して下さり、高い評価を得た。「夕鶴」のつう役を男性のろうあ者が演じたが、当然女形のメイクが要求されメイクにも苦労した。演劇歴は長く、自分も舞台の上でいろいろな役を演じ、その役に合ったメイクをしてきたが自己流なメイクであったし「夕鶴」公演以後他の劇団や団体からのメイク依頼を受けたりしたが、自己流のメイクをしていて「これでよいのか？」と疑問を持ち続づけていた。又、退職したのも「今の生活のままで定年退職してはその後の生活はどうなるのか？」と考えた時、「今、健康に恵まれている時こそ何かにチャレンジしなければ！」と思ったからである。東京のメイクアーチスト学院などを見学し、自分が学ぼうとするものを求め歩いたが、見当たらず諦めようとした時今通っている博多のメイクアートスタジオＺＩＧのマーク浅野先生に遭遇することが出来、３月に退職４月から毎週月曜日博多に出かけメイクの基本から学んでいる。厳しい講義と実技の日々ではあるが、若い人たちと一緒の勉強は楽しい。最終的には舞台メイク・特殊メイクを取得し、舞台で演じる人がその役のメイクを目に見えるだけのメイクではなく、人間の内面にあるその役の「光と影」が出せるように…と。特殊メイクにチャレンジしている現在である。

新たに5団体、1個人

芸振総会で、次の団体、個人の入会が認められた。

■団体　大分市民寄席、プロデュース銀河伝説87、大分第九を歌う会　グループGEN、大分市民劇場

■個人　工藤勝武

加入団体の名称変更

大分ギター合奏団
（旧：大分ギターサークル連盟）

菊　洋　会
（旧：日本民謡協会喜栄会支部）

事務局だより

『文化年鑑 '87』の編集委員、執筆委員決まる

『文化年鑑 '87』の第1回編集委員会が、菅常任理事らの出席を得て、去る8月24日、大手町会館で開かれた。同会では、昨年の反省の上に立って、今年の『文化年鑑 '87』の編集方針、編集日程などを決めた。なお、編集委員、執筆委員は次のとおり。

編集委員

番号	氏名	担当
1	佐々木　均太郎	文芸
2	山本　勝彦	音楽
3	中沢　とおる	演劇
4	佐藤　朱音	舞踊
5	定宗　仁	能楽
6	秋吉　心良	文化財
7	後藤　昭六	編集責任
8	菅　久	編集長
9	徳丸　欽也	編集補佐
10	中野　幸和	〃　、芸振会議
11	藤原　嘉久	生活芸術
12	十時　良	編集総括
13	辛島　光義	〃
14	日名子　金一郎	表紙・写真・美術
15	大塚　靖彦	県内文化行事一覧
16	野村　幸雄	編集総括
17	山村　憲治	芸術祭の概要、会員名簿、市町村文化活動

執筆委員

ジャンル	氏名	ジャンル	氏名
1 文芸	佐々木　均一郎	(4)吹奏楽	斉藤　哲哉
(1)まとめ	佐々木　均太郎	(5)作曲	野崎　哲
(2)小説	佐々木　均太郎	(6)合唱	挾間　文男
(3)現代詩	首藤　三郎	(7)オペラ	小長　久子
(4)短歌	山住　久	(8)職場音楽	中野　幸和
(5)俳句	工藤　芳久	(9)邦楽	遠藤　梢山
〃	足立　雅泉	(10)民謡	池田　萬龍
(6)川柳	佐藤　真砂延	(11)吟詠	深田　光霊
(7)里謡	土屋　北彦	**4 舞踊**	佐藤　朱音
2 美術	十時　良	(1)まとめ	佐藤　朱音
(1)まとめ	菅　久	(2)日舞	花柳　笹之丞
(2)日本画	田川　奨	(3)洋舞	佐藤　朱音
(3)洋画	十時　良	(4)民踊	伊坂　香里
(4)彫刻	合田　習一	**5 演劇**	中沢　とおる
(5)工芸	楢原　長甫	(1)まとめ	中沢　とおる
(6)書道	西村　春斎	(2)自主演劇	阿部　英二郎
(7)写真	三重野　元	(3)高校演劇	秦　清太郎
(8)宣伝美術	波多野　義孝	(4)児童演劇	二宮　敬介
3 音楽	山本　勝彦	**6 能楽**	定宗　仁
(1)まとめ	山本　勝彦	**7 生活芸術**	藤原　嘉久
(2)声楽	土谷　正公	**8 文化財**	秋吉　心良
(3)器楽	辛島　光義		

芸振総会の決議――知事へ要望書提出

去る6月18日開かれた芸振総会では、芸術文化振興について、県政推進の中で、さらに一層の支援をとの決議が、全会一致で行われた。これを受けて、7月10日、挾間会長をはじめ、宮崎・仲町・小長副会長と脇常任理事らが、平松知事に直接要望書を手渡した。(写真)

第2回『おおいた音楽芸術週間』の日程決まる

『おおいた音楽芸術週間』の第1回実行委員会が開かれ、行事の日程が次のとおり決定した。中でも、第3回園田高弘賞ピアノコンクールは、対象者を九州一円に広げて行うことになった。

行事名	期日	場所
オープニングコンサート ベートーヴェンの夕べ	12月10日(木) 18：30～	県立芸術会館
ヴァイオリン・ソナタの夕べ	12月11日(金) 18：30～	佐伯文化会館
第3回園田高弘賞ピアノコンクール本選会及び第2回園田高弘賞受賞者演奏会	12月13日(日)	県庁正庁ホール
ピアノ三重奏の夕べ	12月14日(月) 18：30～	トキハ会館
島田祐子、池田直樹ジョイント・コンサート	12月16日(水) 18：30～	県立芸術会館

発行：大分県芸術文化振興会議＊題字・野田南風＊印刷・㈱双林社